恋情経験
+紫
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

0:愛撫

「やっと来てくれた…今日もたくさん愛してね?」
紫はスルスルと服を脱いでいき、その美しい肢体を目の前にさらけだした。
美しい白い肌、爆乳といってもいい乳房、むっちりとした尻。
ついこの間まで生娘だったとは思えないほど、紫はいやらしい肢体になっていた。
そのすべてが今自分の手の届くところにあると思うと、
硬くならないはうがおかしいだろう。

紫の頬に手を当て耳をくすぐると紫は嬉しそうに目を細める。
「ん…くすぐったいわよ。ふふ…」
「あなたに触れられているだけで、幸せなの…。」
「こんな気持ちになるなんて、本当に不思議だわ。」
紫は頬に当てられた手に頬ずりをしながら愛らしげに言う。

「さぁ…しましょう?」
きゅっとやさしく握り返してきた。

6/キス　&　57/排卵誘発剤

そっと紫の頬を触り
軽くキスを交わす。
そして紫の口腔を隅々まで
舐め回すと、紫も積極的に
舌を絡めてきた。

「ん…あむっ…ちゅっ…ん…」

舌を絡め、唾液の交換をする。
紫の舌は熱くとろとろとしていて
溶け合ってしまいそうなほどだ。

「ん…ふぅ…あなたぁ…好きぃ」

トロンとした表情でキスを交わし続ける。
その瞳を見ているだけで
私の情欲を駆り立てる。

「んっ…ちゅぷ…もっと…もっとよ…」

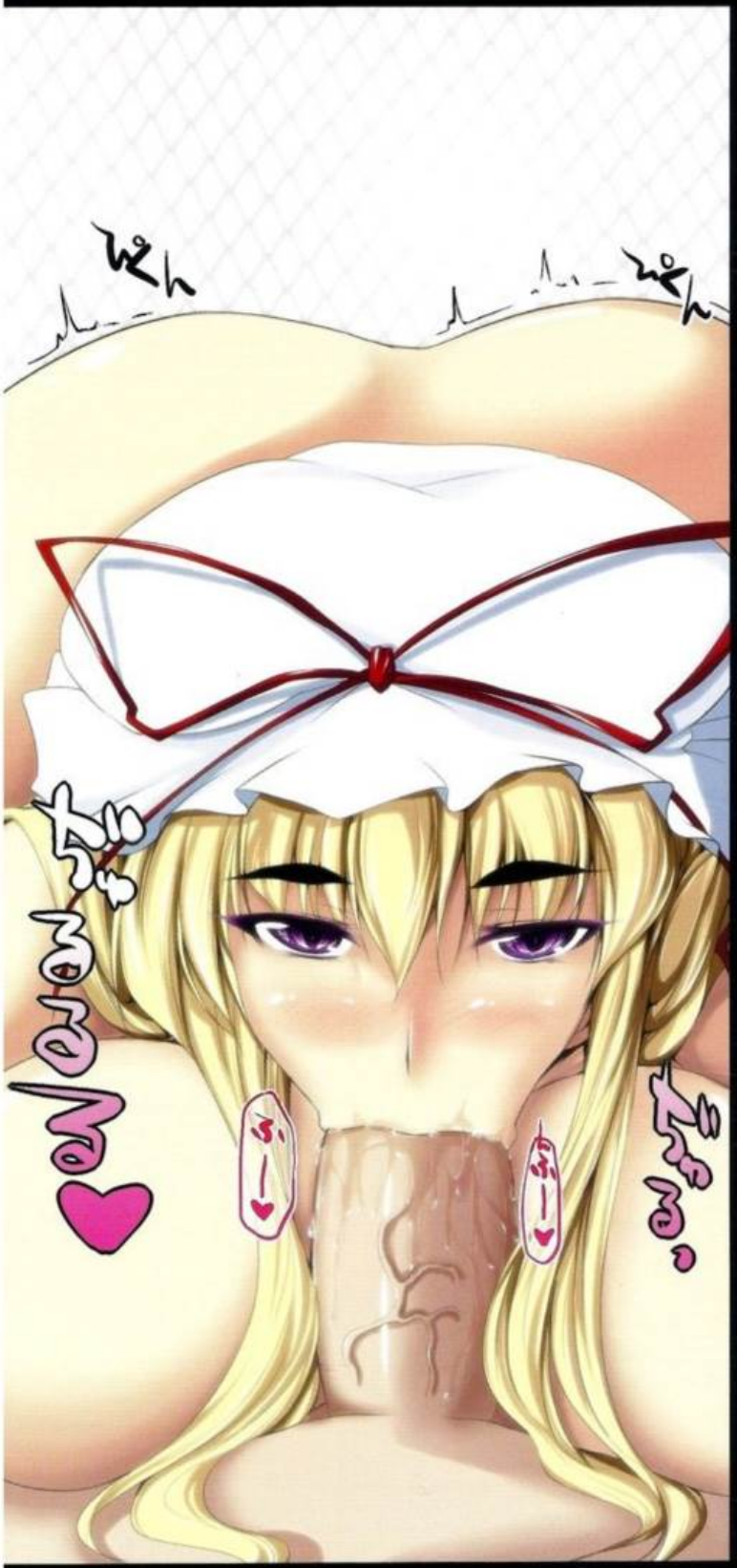
「ん…ふぁ…ぁ…ん…ちゅる…ちゅ♥」
「キスだけじゃ…物足りないわぁ…」
キスを続けながら、
紫は身体をこちらに預けてきた。

紫に口移しで排卵誘発剤を飲ませた。
何を飲まされたかわからない紫は
不安そうにこちらを見つめている。
「何を…飲ませたの？」
「え…子供を…作りやすくするクスリ？」
これまで幾度となく注いできたのに中々できない。
そういう体質なのか、運がないのか…。
間違いなく生理は来ているはずなので、
孕むと信じて注ぎ込み続けるしかない。。

「ごめんなさい…ね。薬まで使わせてしまって…。」
「あとはあなたの頑張り次第ってことかしら。
精一杯気持ちよくしてあげるから一杯注いで？」
「今日は絶対あなたの子種で受精させて。
二人の結晶…あなたの子供孕ませてね…♡」

3/胸愛撫（144/乳首責め）

ぷるん
ぷるん
ぷるん



「ん…ちゅ…れろれろ…れるぅう…ちゅっちゅっ♥」
紫はペニスの根元から亀頭まで愛おしそうに舌を這わせている。
「あなたって私のお口、本当に好きよねぇ……え、紫のすべてが好きだって？
もう、そんな恥ずかしくなることばっかり言って……仕方のない人♥」
紫の舌が、唇がペニスを刺激していく。また上手くなったのではないだろうか
「ん…あなたのおちんぽ…熱くて硬くて…ちゅうっちゅ…っお汁も…んく…全部…おいひぃ♥」
ペニスを丹念に嘗め回しながら紫はうっとりとつぶやく。その間も舌は亀頭から離さないままだ。
「ふふ…そんなにビクビクして。もっとしてほしい？」
紫の口内が極上ということはわかっている。早く、早くとペニスを震わせる。
「ふふ、可愛いおちんぽ♥　なら、私の口まんこでもっともっと…気持ちよくなってね?」
紫はそう言うと、ペニスに舌を添え、ゆっくりと咥えこんでいき激しく吸い上げ始めた。
「じゅるっ…るぅううううっんっんっじゅっ…じゅるっ！ぢゅるる！…んふ…ちゅる…ちゅう…っちゅ♥」

「はむ…はむ…じゅる…ちゅぽちゅぽ…もごもごもご…んふふ…んじゅ…」
「ちゅっ…ちゅるっ…れろれろ…んんっ…じゅるるるるるっ・・・コク…コクン…」
紫は竿をストローのように吸い上げ、トロトロの汁をコクコクと味わっている
竿にはもちっとした紫のおっぱいがまとわりつきさながらパイズリフェラのようだ。
「じゅる…じゅるるう…ちゅぽちゅぽ…じゅるっ…っぷはぁ…ふふ…すごい量。おいしいわ♥」
しかしあと少しで射精というところで紫はフェラチオをやめてしまった。
ビクンビクンと震えるペニスを見つめながら紫は満足そうにしている。
「ふふ…まだダメよ・・・？その玉の中にもっともっと…濃厚な精液ためこんで…？」
紫はそっと亀頭にキスをしてあなたにお願いした。ビクンとペニスが揺れる。危ない。
「子供、作るんでしょう？それに…最初の濃厚な精液を口じゃあもったいないんじゃないかしら？」
そんなことを言われてしまったら、仕方ない。ここは耐える時だと力をいれる。
「わたしだって…本当は…んく…飲みたいんだから…我慢してね？」
そういうと紫は…

紫はうっとりとした表情をしながら
その豊満な胸でペニスを包み隠している。
「すご…あなたのおちんぽ…びくびくして、
おっぱいの間で暴れてるわ…すごく熱い…」
紫は自分の乳房の間に唾をたらし、にちゃにちゃと
ペニスに絡めていく。
「んん…えろ……ふふ、あなたのお汁が多いから
そんなに必要なかったかしら？」
紫はその豊満な乳房を上下左右に動かし
ペニスをこねくり回していく。
ガマンをするこちらの身にもなってほしいものだ。

紫のおっぱいに包まれながら、にちゃにちゃと動かされていると
「ああ…すごい…お汁がどくどく溢れてきてる…ん…ほら…もっと我慢よ？」
紫はそう言うが、責める手を休めることはなくペニスをしごきあげている。
亀頭はすでに胸の合間を脱し、竿だけがおっぱいに包まれているせいで、じわじわとくるのがきつい。
じっとペニスからあふれ出す汁を見つめながら、紫はおっぱいを揉み上げている。

白く美しい肌の紫の豊満な胸にペニスを埋めていくと
紫の膣にいれているような錯覚に陥った。にゅるにゅると
まとわりつく乳肉。ぬるぬるとする自分の汁と紫の汗と唾。
「そんなに腰振っちゃってぇ…紫の中に入ってるみたいだ。って？
「んっ♡んあっ…そんなに…気持ちいいの？」
「それじゃ、私のおっぱいまんこ…存分に犯して…ね？」
遠慮なく突き上げていく。
硬くなった乳首も巻き込むようにしてあげると紫も
気持ちがいいのか舌をだして喜んでいる。
「んっあ…おちんぽあつい…乳首気持ち…いひ「ぃ…んあああっ♡」

あ♥
ぐぐぐ
ぐるぶ
ぐるぶ
ぐるぶ

あひ
ぶるん
ぶるん
ぶるん

ぶくぶく
ぶくぶく
ぶくぶく

19/対面座位

紫の膣奥まで差し込んだところで一度止めるとビクビクと膣内が攻め立てる。
「…あっ…んっあ゛…もう…いきなり…激しいわよぉ…んちゅ…ちゅっ♥…ん」
紫の唇はとても柔らかくそして気持ちがいい。
紫と触れ合っているだけで幸せになれる。そっと優しく背中を撫であげる。
「あ…♥…もう…急に…ちゅ…ん♥…好き…ちゅっ…ちゅぶ…しゅきぃ…♥」
紫の腰に手をまわしきゅっと抱きしめ、愛を囁きあう。
「あなたの…温もりが心地いい…。んちゅ…♥」
キスを繰り返していると紫が切なそうに腰を動かしていた。
「んっ…ふ…ぁあ♥…ねぇ動いて？もう大丈夫だから…愛してちょうだい…」

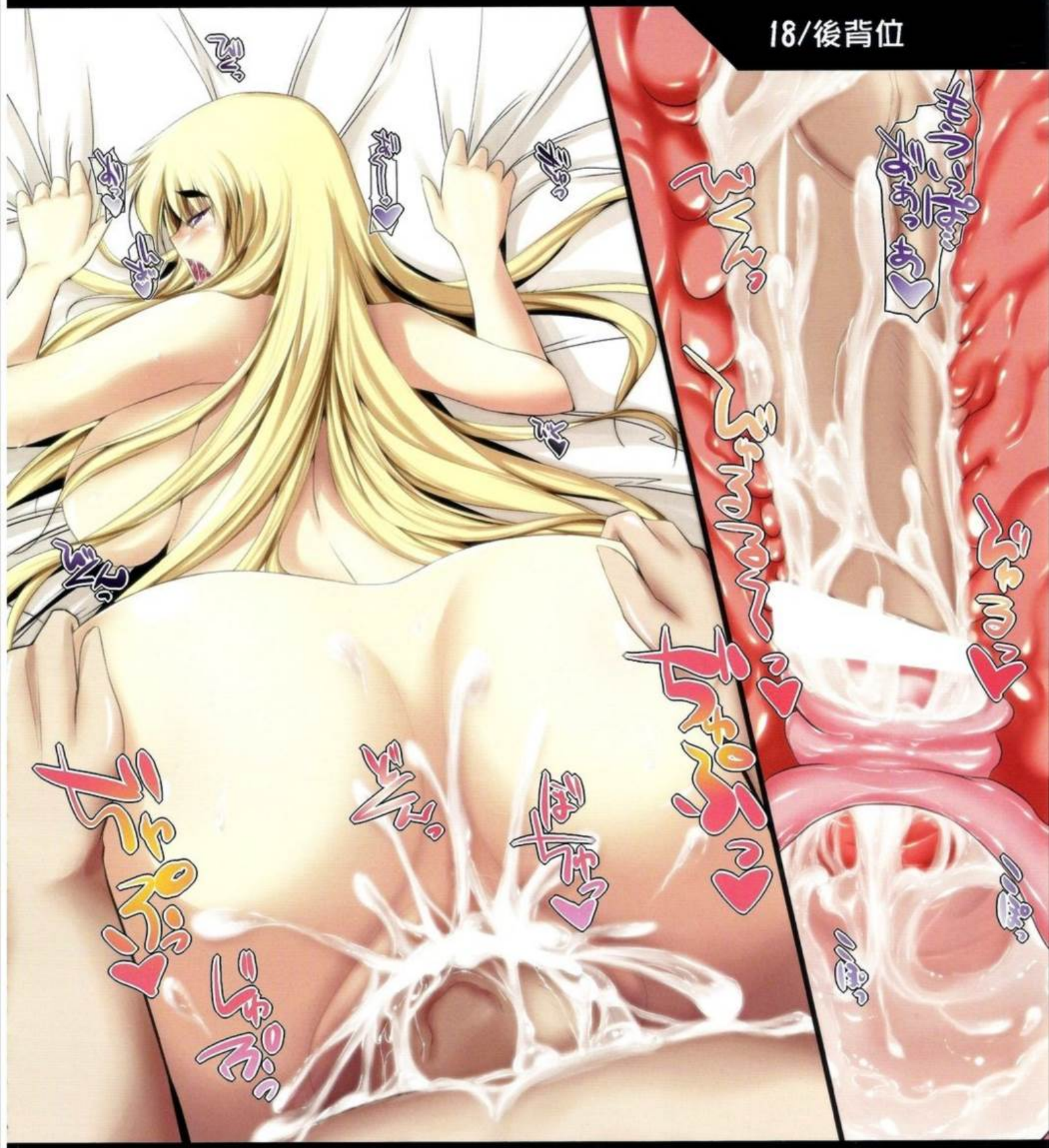
ゆっくりと膣奥から抜き、そして段々と速度をあげて腰を動かしていく。
「ん…ぁっ…んあ…気持ち…いい。もっと…もっと愛して…」

17/正常位

紫の膣にいれたままそっとベッドに横たえる。
『私、この体位がやっぱり一番好き…あなたの重さ、
　あなたの温もり…そしてなによりも
　あなたと一つになっていることが実感できるの…』
『人と妖ではなくて、あなたと本当に一つになってる…』
紫はそういいつつ、足を絡め腰を押し付けてきた。

『ん…っじゅる…っ愛しれるぅ…あなた！らから…』
『もっと精液頂戴…！あなたの子供…っ早く…』
紫の子宮口が言葉に応じてゆるくなった気がする。
亀頭が入り口をこじあけ子宮内へと入り込む。
『あ　…ぁあ　ーーー！！おちんぽ入っ…てきたぁ♡』
『子宮…が…んぁ！あっ…あぐっ…おちんちんてぇ
壊されちゃ…ああっ…はやく射精ひてぇ…♡』
ビュブッ！ビュルルウウウ！！！ビュルルッ！！！！
『あ　ーーー♡ぁあ　…き…たぁ…♡あなたの…直接ぅ…♡』
子宮内で暴れる射精中のペニスを子宮口が
きゅっきゅっと締め上げ、射精を促してくる。
　　紫は子宮内で受け止めた射精の快感に
　　涎をこぼしながら絶頂している。

おっ♥
おっ♥
もっと♥
もっとらしてぇ♥
あなたのせいもっとまいってぇ♥
ぐっ
ぐっ
ぐっ


もうっぱなっ
おぁっぁ♥
ごくんっ
じゅるるるっ♥
ぢゅぷっ♥
ごぷっ
ごぷっ
ぢゅぷっ♥
じゅぷっ♥
じゅぷっ♥
ぢゅぷっ♥
ぢゅぷっ♥
ぢ

『は――――――――♥…は――――――――♥……もう…らめよぉ…限界…なの…ぉ』
紫の膣内から未だ大きなままのペニスをズルリと引き抜くと、紫はそのままベッドに崩れ落ちた。
幾度となく膣内に注き込み続けた精液が、ごぽり、ごぽりと溢れ出てくる。
紫とあなたはその様子をじっと見つめていた。
『ん…はぁぁ…でてきちゃう…せっかくがんばってくれたあなたの精液が…ん…だめよぉ…』
紫はどうにかしようとするが、ぽっかりと開いたままの膣口ではどうすることもできないようだ。
『でもこれだけ…子宮に精液が貯まってたら…きっと赤ちゃん…出来てるわよね…ふふ♥』
とても嬉しそうに、微笑む紫を見ていると自分のペニスにまた力が戻ってきていた。
糊の塊のような精液が未だに溢れている膣口に狙いを定め、腰をすすめる。
『え…ええ！？まだ…出来るの…？んくっ…っぁぅ…溢れた分をまた注いであげる。って？』
『でも…もう今日は…んぁぁ゛！　ぁ…っん…ぁぁ゛っ！も…もぉだめぇ…！』

「ん･･･今日もお疲れ様。あ、じっとしていて？私がしてあげるから･･･」
「仕事帰りで疲れているはずなのに、おちんちん、こんなにして･･･もう」
「え？帰ったら紫といちゃいちゃするんだって思ったら午後からずっと？」
「連絡してくれたら、スキマでいってあげたのに。ふふ、可愛い人ね」
「ちゅ♥もうおちんちん、びくびくしてる。でちゃいそう？」
「ほら、ガマンしなくてもいいから。身を任せて。あなたが大好きなこのおっぱいでつつんであげるから･･･」
「ちゅっ･･･んっ･･･顔にも、胸にも出していいから…んっちゅぷ……んく…ちゅぽ」
紫は手に余るほどの爆乳を使いペニスをつつみこみこすりあげていく。
「ん…すご…こんなにももう溜まっていたの？…朝にあれだけ飲ませてもらったのに…」
「ぢゅる…ん…やっぱおいひぃ♥あなたの精液…くせになっちゃったわ…♥」
精液をおいしそうにすする紫だが、切なそうに乳首を未だにこすりつけている。
「ひゃあ！！･･･やん･･･もうそんなに乳首ばかりいじられたら･･･ミルクでちゃ･･･ん･･･んぅうううう！」
豊満な乳房の張り詰めた紫の乳首をぎゅっとつまんであげると、勢いよく母乳を噴きだした。
紫の乳首からはとめどなく母乳が溢れだし、精液とまざりあって、紫のおっぱいは汁まみれになっている。

＜噴乳経験+１＞
＜奉仕快楽経験+２＞
＜強制精飲絶頂＞

あっ♥
んぁ♥
あぁ♥
あなたが
すきなのぉ♥
ぷるん♥
ぎゅむっ♥
ぎゅむ
もっと♥
もっと
ちゅぷ
ちゅぷ
ゴッ
ゴッ
ぢゅぷ♥
ぢゅぷ♥

あとがきを含めて。

ども、はじめましての方ははじめまして。
今までの方はこんにちわ！すてぃえるです。

このC78で、同人に復帰して約一年になります。
ここまで紫と一緒にやってこれたのは
本を手に取っていただいた皆様のおかげであり、
今回も紫をめいっぱい愛せましたありがとうございます。
と、堅苦しい挨拶なんかはこのあたりでやめにして…

今回はフルカラー本でしたが、いかがでしたでしょうか。
以前のほうがよかった、とかありましたら
レッツメール！
Pixivでアンケなんかもやってると思いますので、
判断していただけると嬉しいかもしれません。

今回の本は皆さんご存知だと思いますがeratohoを
元にした本となります。バリアントが何かは
明記しませんが、たぶんちらほらと
見たことのある口上があったかもしれませんね。
作ろうとしたきっかけは、単純に紫の口上が
アップデートされないから、といういつもどおりいえば
いつもどおりの自分本位の本です。

少し紫との馴れ初めなんかを語っちゃおうかな
とかなんとか。ほら、せっかくのフルカラー本ですし、
色々とほじくりかえしましょう。

紫と出会ったのは、珍しくゲームではなく
BGMと書籍からでした。
ゲーム自体はＳＴＧが苦手の自分には
妖々夢をノーマルクリアとか難易度高すぎて。。

Pixivの影響も大きかったですね。
ふとまゆかりんと出会えたことが一番の僥倖
だったのではないでしょうか。
金髪、ふとまゆ、おっぱい、最強？とか
惹かれる要素ばっかり…
昔の自分であれば１冊でも出せば満足して
別のキャラを描いていたのですが、紫に限っては
そんなこともなく今回ふくめて６冊となりました。
…すごい。ここまでのめりこめるなんて…。
紫愛してるー！！

左の絵は
去年に抱き枕欲しい。紫といっしょに寝たいー。
抱きしめて顔をおっぱいにうずめたいーとか思って
描いてました。今回のおまけページのために
顔パーツと髪の毛のみ塗りなおししてみました。
以前のイラストはPixivに残っているので
見比べてみるとおもしろいかもしれませんね。
いやはや紫可愛すぎでしょう。愛してます。

紫は俺の嫁！！
とか大手をふって言えるわけがないので
自分が描く紫だけは、この紫だけは…
自分自身が満足できるように
描き続けていきたいとおもいます。

って締めちゃだめだ。
今回のようなえっちぃ紫も大好きですし、
左のページのようにかっこよく構えた紫なんかも
今後はちょくちょく描いていけたら
また幅が広がるかなぁと思いつつ、
やはり次回もおっぱいおっぱいになりそうですw

左ページに続く。

右の絵は、ふとかっこいい紫も描きたい。
強者たるものを描きたいと不慣れながらも
じっくり時間をかけた一枚ですね。
去年９月頃の絵ですね。自分的にもこれが精一杯だった
と思います。Pixivにて初めて一般デイリーに載ったのも
このイラストでした。
ちょうどサンクリ当日だったことを覚えています。
背景も雲と月のみのシンプルなものですが、相当悩んで
スティッカムで色々相談したりしましたねー。。

お気に入りは、スキマの眼なのはいうまでもない(ぇ

下の絵は、例大祭集合絵企画に投稿したときの紫ですね。
はじめは傘だろ、とか思ったんですが
右の絵のリメイクもおもしろいなぁと。

じっくり細かいところまで描けて
楽しかったですね。
刀の装飾なり、できる限り細部まで。
愛があれば何でもできる。
と実感したりしなかったり。

そういえば、
スキマを使って『千本〇』
とか考えてたのはここだけの話w
プ〇ーチです。本当にありが(ry

一年を通してPixivにはお世話に
なりっぱなして、紫を描かなかった
月はほとんどなかったのかな。
そのおかげで、ここまで紫を可愛く
描けるようになれて自分的には
満足です。今後もゆっくり
紫を愛していければと思います。
そっと、生暖かい目で見守ってください。
よろしくおねがいします。

今後の予定としては、
受かればですが初めての関西
紅楼夢、久々のサンクリ、
そして冬コミケということになります。

また次の本でお会いできることを
祈りつつ、締めとさせていただきます。

愛情経験+紫

奥付

■誌名
あいじょうけいけんぷらすゆかり
(限月:6冊目)

■サークル
限月

■発行日:初刷
二〇一〇年八月十四日
コミックマーケット78

■発行者
すてぃえる

■印刷所
ねこのしっぽ様

■メールアドレス
taoyaka3@nifty.com

■ホームページ
http://kagitsuki.web.fc2.com/

■PixivID
773856

■すてぃっかむ
stieltaoyaka

■ついったー
stiel_

愛情経験
+紫
TOHO PROJECT FANBOOK
PRESENTED BY KAGITSUKI